

明神鼻の小屋を活用した地域文化の継承

明神鼻の小屋実行委員会

活動の目的

日比地区の文化や景観を特徴付けている大槌島は、北は岡山県、南は香川県に二分されていて、岡山側は日比の御前八幡宮が所有者です。島に伝わる龍神や大蛇伝説は、日比・向日比地区に住む人々のもとより、周辺地域、対岸の香川県の歴史・文化・信仰の形成にも重要な影響を与えています。その一方で、島への関心が薄れるに従い、御前八幡宮や地域の祭りなど土地との関係が衰退しつつあるのが現状です。豊かな伝承を活かし、祭りの成り立ちなどを知るには、(一般市民が触れる機会の少ない)郷土史などの文献記録として残すだけでなく、継承する方法に工夫を加えて活動を行っています。

活動の内容及び経過

明神鼻の岬沖に浮かぶ「大槌島」をテーマに、桜茶会、明神鼻の小屋の活動報告&講演会、向日比地区にまつわるおろち伝説の創作狂言、しめ縄製作の4つの催しを開きました。

春の催し「明神鼻の茶会」では、亭主を茶の湯の先生ではなくメンバー自身が務めました。一般的な茶会では茶道具などを通じて正客とやりとりを行うのですが、今回の茶会では、向日比地区の歴史や景観、活動の目的などを通じてより深い空間を醸成しました。また、提供した和菓子は、大槌島をテーマとしたものを特注し、特別の雰囲気を出しました。

夏の催し「活動報告&講演会」では、地域の方々に活動の趣旨と認知をしていただくことを目的に開催しました。多くの方に理解が広がることで、今後の活動の継続や催しの規模、様々な調整がスムーズに運ぶことができると考えました。さらに、講演会「大槌島の大蛇〜どこから来てどこへ行くのか?」では、大槌島の歴史的な解釈を対岸の香川からの視点や宗教観などを加えることによって、新しいものの見方を注入しました。

秋の催し「創作狂言」については、大槌島に棲むという大蛇伝説をストーリーの軸に創作し、狂言の台本制作は「玉野しおさい狂言会」にお願いしました。しかし、当日は残念ながら台風の直撃により、狂言の公演自体は中止を余儀なくされました。暴風雨の中を7人のお客様が来場され、小屋の中で狂言会の方2名によるリハーサル的な仮公演(台本では4名出演だが台風で2名来れなかったため)とEXCAFEの杉本さんによるおもてなしを行いました。今回の経験を踏まえ、今後は荒天対策と中止の場合の伝達方法をどのように行うかの課題が残りました。

冬の催し「しめ縄製作」では、農家さんに藁をいただく



ことから始まり、地域の方に縄織りの指導を仰ぎ、明神鼻の小屋から大槌島を視線で詣るための大注連縄を制作、設置しました。年明け正月には、大注連縄の前から新年参拝を行いました。

活動の成果・効果

「食・学び・鑑賞・体験」の4つをテーマに年間を通じてイベントを開催し、それぞれ「茶会・講演会・舞台と地踊り・縄織り」を当て、様々な角度から大槌島の歴史や文化を知ってもらうことができました。これらの活動を行ったことにより、老若男女、児童も含め様々なターゲット層へと参加の可能性が広がりました。

大槌島の大蛇伝説などの伝承を知識として得るだけでなく、鑑賞や体験を通じて大槌島と自分自身との関わりを実感することで、地域の祭りや催しを行う意義や動機を自覚することができ、コミュニティの活性化につながったと思います。

さらには、SNS(フェイスブック)や新聞などへの露出を増やすことによって、また自らの地域コミュニティを外部的な視点で認知することによって、様々なコミュニケーションの誘発が行われました。

今後の課題と問題点

活動を始めてから4年が経過しましたが、地域の方への認知が未だ充分には進んでいないのが現状です。今後は、どのようにして認知を促進させていくかということ、イベントの開催だけに留まらず、より意義ある活かし方を検討することが必要です。

- 代表者：清水直人 ●所在地：玉野市築港
- TEL：090-1333-5598 ●E-MAIL：hito.ot@gmail.com
- URL：http://myoujin-coya.main.jp/index.html
https://www.facebook.com/myoujincoya
- 設立年：2014年 ●メンバー数：8名